

2023年度冬季開催 札幌国際芸術祭(SIAF)ディレクター 小川秀明氏の就任が決定

札幌国際芸術祭実行委員会(会長:秋元克広[札幌市長])は、次回2023年度冬季に開催する札幌国際芸術祭(Sapporo International Art Festival 略称:SIAF)*1のディレクターに小川秀明(おがわ・ひであき)氏を選任しました。

小川氏は、札幌市と同じユネスコ創造都市ネットワークのメディアアーツ都市*2であるリンツ市(オーストリア)において、アルスエレクトロニカ*3・フューチャーラボの共同代表を務め、メディアアートの先進的な取り組みに長年携わっています。略歴や選考理由等は別紙をご覧ください。

次回開催のSIAFは、メディアアーツ都市・札幌の強みや、まちの魅力を存分に生かし、さっぽろ雪まつりなどの既存事業とも連携しながら、小川氏と共に札幌の冬を変える驚きと発見に満ちた芸術祭の実現を目指します。

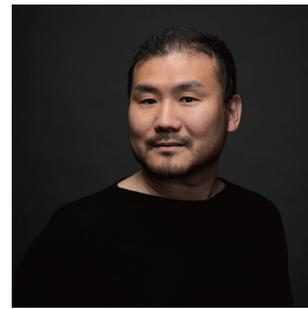
また、2月にはSIAFとSIAFラボ*4の2つの関連イベントの開催を予定しています。詳細は別紙をご覧ください。

小川秀明ディレクターよりメッセージ

今回の札幌国際芸術祭は、未来に着目します。それは誰かが創る未来ではなく、自ら創る未来です。アートは、まだ見たこともない未来に向かうためのコンパスを私たちに与えてくれるものだと思います。

私のミッションは、市民に開かれた“創造エンジン”としての芸術祭を実現することです。コロナ禍や気候変動など、予想し得ない地球規模の緊急課題に生きる21世紀において、未来志向の教育やイノベーション、そして地球や自然、テクノロジーとの共生は不可欠です。小さな子どもから大人まで、さまざまな人たちがアートを通して試行錯誤を行い、未来について議論する場を札幌で作っていただければと考えています。

みなさんとコラボレーションすることを楽しみにしています。



小川氏のディレクター就任メッセージ動画を1月25日11時からSIAF公式YouTubeチャンネルで公開しています。



お問い合わせ

札幌国際芸術祭実行委員会 担当:高橋・國安

060-0001 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌時計台ビル10階

電話:011-211-2314(平日8:45~17:15) Fax:011-218-5154 E-mail:press@siaf.jp

https://siaf.jp

《小川秀明氏略歴》

2007年からオーストリア・リンツ市を拠点に活動。アートとテクノロジーの世界的文化機関として知られるアルスエレクトロニカにて、アーティスト、キュレーター、リサーチャーとして活躍。現在は、同機関の研究開発部門であるアルスエレクトロニカ・フューチャーラボの共同代表を務める。アートを触媒に、未来をプロトタイプ(試作)するイノベーションプロジェクトや、市民参加型コミュニティの創造、次世代の文化・教育プログラムの実践など、領域横断型の国際プロジェクトを数多く手掛けている。

- *1 **札幌国際芸術祭**(Sapporo International Art Festival 略称:^{サイアフ}SIAF).....3年に1度、札幌で世界の最新アート作品に出合える特別なアートの祭典。初回(2014年)のゲストディレクターは坂本龍一氏、2回目(2017年)は大友良英氏、3回目(2020年)はディレクターチーム制で天野太郎氏、アグニエシュカ＝クビツカ・ジェドシュツカ氏、田村かのこ氏が就任した(3回目は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)。次回は2023年度冬季に開催する。
- *2 **メディアアーツ都市**.....ユネスコ(国際連合教育機関)創造都市ネットワーク(UNESCO Creative Cities Network)における登録7分野のうちの一つ。デジタル技術などを用いた新しい文化や、クリエイティブ産業の発展を目指すと共に、都市生活の改善に結びつくメディアアーツの振興や、文化多様性の理解等を促す電子芸術の成長をけん引する都市。現在21か国22都市が加盟しており、札幌市は2013年、リンツ市は2014年に加盟。
- *3 **アルスエレクトロニカ**.....オーストリア・リンツ市を拠点とする世界的な文化機関。以下の4部門を軸に、革新的なアイデアや未来像を提案し続けている。
 - ・アルスエレクトロニカ・フェスティバル:「アート・テクノロジー・社会」をテーマに毎年開催されるフェスティバル。メディアアートを扱うフェスティバルとしては世界最大級の規模を誇る。
 - ・アルスエレクトロニカ・センター: 未来の美術館・未来の学校として知られる体験型アートセンター。
 - ・プリ・アルスエレクトロニカ: メディアアートの国際コンペティション。
 - ・アルスエレクトロニカ・フューチャーラボ: 多様なアート作品の制作やリサーチを行う研究開発部門。
- *4 **SIAFラボ**(サイアフ・ラボ).....札幌を拠点に活動するアーティストやエンジニア、大学教員など、アートに関する専門性を有するメンバー4名を中心とした、札幌国際芸術祭の継続的なプラットフォーム。札幌・北海道を舞台に、アートやテクノロジーの視点から未知のものごとを調べ、未だない何かを作り出そうとする独自の活動を展開している。

《SIAF2024(仮称)ディレクター選考基準》

- (1) 企画体制のメンバー・コミュニケーションデザインチーム^(注)及び事務局と共に現代アート・メディアアートの企画が実現できること
- (2) 札幌市がユネスコ創造都市ネットワークに「メディアアーツ都市」分野で加盟していること及び札幌国際芸術祭基本構想を踏まえ、SIAF2024(仮称)の目指すところを実現する芸術祭のテーマ・コンセプトを設定できること
- (3) 地元の専門人材(地域学芸員、コミュニケーションデザインチーム^(注)等)を含んだ体制で、互いを尊重し協働して企画立案等を進めることが可能であること
- (4) SIAF2024の代弁者として芸術祭を発信することが可能であること(スポークスパーソン)

《小川秀明氏選考理由》

- (1) アーティストグループ主宰のほか、多数のアートプロジェクトの監修やキュレーションの実績があること
- (2) ユネスコ創造都市ネットワーク・メディアアーツ都市分野に加盟しているリンツ市を拠点に活動しており、創造都市についての造詣が深いことに加え、これまでの札幌市の取組やSIAFについての理解もあることから、次回SIAFが目指すものを具体的に構想し、実現することが可能であること
- (3) アート&テクノロジーの世界的な文化機関であるアルスエレクトロニカでの実績・経験や、アルスエレクトロニカ・フューチャーラボの共同代表としてチームを率いているほか、企業や行政との協働プロジェクトの経験が豊富であること
- (4) 国内外の文化関係者とのネットワークが豊富であること

注) 札幌国際芸術祭2020で設置したコミュニケーションデザインディレクター(芸術祭と鑑賞者を繋ぐ役割)は、地元人材を中心にしたチーム制(コミュニケーションデザインチーム)として組織することを検討しており、体制及びメンバーについては別途発表する予定です。

イベント
情報 1 札幌国際芸術祭2023-24 プレイベント上映会

世界最先端のアニメーション作品に出会う！

-アルスエレクトロニカ・アニメーションフェスティバル2020 オン・ツアー in NHK札幌-

小川秀明氏のディレクター就任を記念し、最新のコンピュータアニメーション8作品をお楽しみいただく特別上映イベントを開催します。日本初上映となるセレクションを上映するのは、NHK札幌拠点放送局内に設置された280インチの大型ビジョン。従来のアニメーションの枠にはまらない、表現の幅を広げる最先端のデジタル映像作品をぜひご覧ください。

日時：2022年2月23日(水・祝) 11:00～12:45／14:30～16:15

会場：NHK札幌拠点放送局 8K公開スタジオ(札幌市中央区北1条西9丁目1-5)

主催：札幌国際芸術祭実行委員会、札幌市、NHK札幌拠点放送局

協力：アルスエレクトロニカ、オーストリア文化フォーラム

詳細は後日公式ウェブサイトで発表します <https://siaf.jp>イベント
情報 2

SCARTS×SIAFラボ 冬の展覧会2022「都市と自然とデータとかたち」

札幌の都市と自然をテーマに、札幌の気温や降雪量、交通量などのさまざまなデータを集めて“かたち”にした展覧会です。

会期：2022年2月5日(土)～20日(日) 10:00～19:00 ※9日(水)は休館

会場：札幌文化芸術交流センター SCARTS SCARTSモールA・B／SCARTSコート
(札幌市中央区北1条西1丁目札幌市民交流プラザ1階)主催：札幌文化芸術交流センター SCARTS(札幌市芸術文化財団)、札幌国際芸術祭実行委員会、札幌市
イベント特設サイト <https://siaflab.jp/wex2022/>

新プロジェクト「S.I.D.E(サイド)」始動

SIAFラボ関連情報

2015年から札幌国際芸術祭のかたわらで実験的活動を続けるSIAFラボは、札幌・北海道をフィールドにしたR&D(研究開発)プロジェクト「S.I.D.E」を始動します。

音楽家のデーヴィッド・チュードアが発案し、E.A.T.*のサポートを得ながら中谷芙二子らと1970年半ばから十年以上に渡り取り組んだ《Island Eye Island Ear》は、孤島をまるごと楽器化するという構想に基づき、サウンドビーム、霧や風などを用いて「島の自然を露わにすること」を目論んだプロジェクトでした。並外れたスケールに加えて、自然と技術に対する特異な思想ゆえに未完に留まったこの壮大なプロジェクトを出発点にして、その今日的な実現可能性を探ると同時に、島としての北海道のリサーチや研究者らとの対話を重ねながら、芸術祭と並走するサイドプロジェクトの方向性も模索します。

プロジェクトメンバー

- 企画／運営：SIAFラボ、北海道大学CoSTEP(科学技術コミュニケーション教育研究部門)
- アーティストリサーチャー：中井悠(アーティスト／東京大学大学院総合文化研究科准教授)
- キュレトリアルリサーチャー：明貫紘子(キュレーター／映像ワークショップ合同会社代表)

※キックオフ時のプロジェクトメンバーで、今後、増えていく可能性があります。

* E.A.T.について

E.A.T.(Experiments in Art and Technology)は、1960年代半ばにベル電話研究所の技術者であったピリー・クルーヴァーを中心にして、アーティストとエンジニアが実験的な共同制作を展開した集団です。デーヴィッド・チュードアと中谷芙二子もE.A.T.のメンバーとしてさまざまなプロジェクトに参加しました。日本におけるE.A.T.の代表的な活動として大阪万博(1970年)のペプシ館があります。

詳しくはWEBサイトをご覧ください。 https://siaflab.jp/release/side_202201.pdf